

ほおのき
朴ノ木遺跡

所在地 豊田市下山田代町朴ノ木地内
(北緯 35 度 1 分 29 秒
東経 137 度 18 分 56 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発施設
用地造成事業

調査期間 平成 24 年 9 月～平成 25
年 3 月

調査面積 4,000 m²

担当者 成瀬友弘・本田英貴・米満武

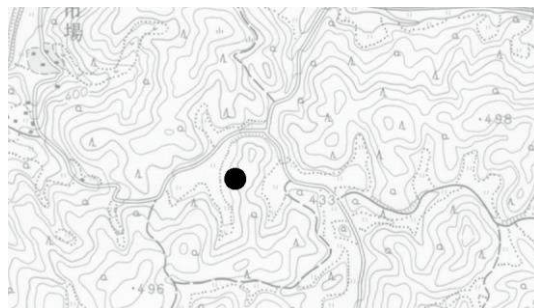
調査経過 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う事前調査として、
愛知県企業庁より委託を受けて実施した。

立地と環境 本遺跡は、谷間の斜面に立地しており、現在の状況は山林である。
現在の標高は海拔 430～450m 前後である。周辺の遺跡として、約 1.4Km 北方に代官屋敷遺跡（縄文、中世）がある。

調査の概要 本年度の調査面積は 4,000 m²あり、調査は谷間にそった緩斜面上にある A 区と、その南に繋がる緩斜面と急斜面からなる B 区に分けられる。両区とも現在は、主に杉を植林された山林である。A 区では、時期を特定できる遺物は出土しなかったが、焼土を伴う土坑と、礫を充てんした土坑が見つかった。B 区では、時期は不明であるが、複数の陥し穴と思われる土坑を検出した。

12A 区 12A 区は主に杉を植林した山林で、面積は 1,950 m²である。A 区の層序は、斜面上部と下部で異なる。斜面上部では表土の褐色シルト層を除去すると地山である黄褐色シルト層が表れる。谷には黒褐色シルト層が堆積する。斜面下部の平坦面では地山が礫交じり砂層となり、地山直上の黒褐色～暗褐色層も砂質が強いものとなる。また、黒褐色層の直上には、黄褐色シルト層が堆積する。調査は、褐色シルト層の表土および、黄褐色シルト層を除去した面を第 1 面として遺構検出を行い、谷部および平坦面に堆積する黒褐色層を除去した面を第 2 面として遺構検出をおこなった。

第 1 面の調査は、複数の土坑を検出した。西側壁面トレンチ沿いで検出した 010SK は、直径 1.47m 程の円形を呈し、深さ約 0.4m、内部には花崗岩中心とする礫が充填されていた。礫に大きさや形状に統一性はない。土坑の肩を囲むように礫が置かれていたが、内部に配列された状況は認められず、用途は不明である。012SK は、長径 0.86m、短径 0.57m を測る楕円形の土坑で、長軸が斜面に並行する。深さは斜面上部で 0.32m をはかる。遺構の上部中央に焼土を含み、斜面上部を深く掘り込み、底部を水平にしようとした意図が見られる。296SL や 297SK と形、規模ともに類似するが、被熱痕は認められない。011SK、055SK は直径 1 m 程の円



調査地点（国土地理院 1/2.5 万地形図「東大沼」）

形を測り、炭化物を含む層を持つ土坑である。外周に被熱痕が見られ、炭焼窯の残滓の可能性が考えられる。

第2面は、調査区北端の谷筋脇で296SL、297SKを検出した。遺構の大きさ、形状は前述した012SKと類似し、長軸が斜面に並行する。形状や大きさなどから012SK、296SL、297SKについては同時期のものである可能性が考えられる。297SKは遺構上部に焼土を含むが、壁面、底部ともに被熱痕は認められない。一方296SLは、表面付近と底部直上に炭化物を多く含む。また、壁面、底部はともによく被熱しており、特に底部は被熱による影響が顕著であり、約1cmほどの厚さで底面が硬化していた。

上面、下面ともに遺物は乏しく、遺構の時期特定は困難である。

12B区

B区はA区の南に隣接し、山側の急斜面の地域と、A区からつながる緩斜面の地域からなる。面積は2,050㎡である。急斜面の範囲は、表土の薄い斜面部分と、厚く堆積している鞍部部分に分かれ、もっとも傾斜が急な範囲は、約33mの幅で約11mの標高差がある。緩斜面の範囲は土砂が厚く堆積して形成されている。調査は、表土および、黄褐色層を除去した面を第1面として、鞍部および緩斜面に堆積する黒褐色層を除去した面を、第2面として調査した。

第1面の調査では、緩斜面部で、南北に蛇行する1筋の溝状の遺構306SDを検出した。共伴する遺物はなかった。

第2面の調査では、急斜面鞍部で4基、緩斜面1基の土坑を、そして緩斜面底部からは自然流路を検出した。山側の鞍部に所在する312SK、316SKの底面には各々1ヶ所、4ヶ所の、緩斜面にある319SKの底面には1ヶ所の小ピットが確認され、土抗底面に杭が存在した痕跡がみられる。316SKに隣接する315SKでは、底部に杭状の物を打ち込んだ跡を検出できなかったが、形状から陥穴の可能性が高い。陥穴から共伴する遺物はなかった。緩斜面の東側は、山からの土砂の堆積が目立つが、緩斜面の西側はかつての自然流路322NRを埋める形で土砂が堆積していた。322NRからは縄文土器片が1点出土したが、原位置を保っていなかった。

上面、下面とも遺物は乏しく時期決定は難しく、詳細は不明である。
(本田英貴)

まとめ

下山地区における今年度の調査では、多くの陥とし穴と考えられる土坑が確認されており、本遺跡では尾根上から沢に向かって走る浅い谷地形にまとまって陥とし穴が構築されており、他の遺跡も含めこうしたこの地域での狩猟のあり方などを考える上での貴重な資料を得ることができた。
(成瀬友弘)



朴ノ木遺跡遺構図 2 面目 (1:600)



朴ノ木遺跡 遺跡全景



A区 010SK 集石遺構出土状況



A区 296SL 縄文の炉跡断割り状況



B区 316SK (陥穴) 検出状況



B区 319SK (陥穴) 完掘状況